REDO ログ・バッファのサイズチューニング
REDO ログ・バッファが原因による遅延発生調査

REDO ログ・バッファのサイズは、初期化パラメータで指定されています
通常は、LOG_BLOCK_SIZE × 4 バイトで運用されています。
このサイズが小さすぎると、ログ・ライター（LGWR）は、頻繁にディスク書込みが発生し処理遅延につながります。
なお、REDO ログ・バッファは、自動メモリ管理および、自動共有メモリ管理での自動割当て対象外です

（1）REDO ログ・バッファの遅延を調べる方法

select * from V$SYSTEM_EVENT where EVENT = 'log buffer space' ;

EVENT 列 log buffer space の AVERAGE_WAIT が大きな値になっている場合は、REDO ログ書込み遅延が発生しています。

（2）アクティブ・ログファイルの領域の割当て待ちの発生確認

select * from V$SYSSTAT where NAME = 'redo log space requests' ;

NAME 列 redo log space requests の VALUE 値が、0 以外のときはアクティブ・ログファイルの領域割当ての待ちが発生しています。

【設定変更】

（1）と（2）を確認して、必要があれば初期化パラメータ log_buffer のサイズを大きくする（設定単位は、バイトです）
指定する値は、DB_BLOCK_SIZE の整数倍値のこと
なお、この初期化パラメータの変更操作には、システム管理者が SYSDBA モードで接続する必要があります
設定後、設定値を反映させるには、Oracle の再起動が必要です